

## 第9回政策対話における一般傍聴者アンケート結果(抜粋)

問. 化学物質に係る取組など、今後の「化学物質と環境に関する政策対話」で取り上げて欲しい内容について

### 【テーマの決め方について】

- ・事務局は、委員に事前にテーマの伺いをたてるべきである。
- ・政策対話は、対話なので、事務局が決めるものではない（全ての意見を聞きなさいとの事）。それでは、まとまるわけがない。
- ・防災・製品情報・人材のそれぞれにフォーカスした会合をどんどん開催してスピードアップしてください。

### 【海外における法規制】

- ・米国の TSCA や欧州の REACH。

### 【国際協調】

- ・各国間での情報共有・交換について（データ、QSAR、in silico など）。

### 【ライフサイクル全体での管理】

- ・マレーシアなどにおいて有害廃棄物が化学物質として重要視され法も欧米並みになっている。ライフサイクルで、日本も縦割りではなくリスクベースで検討するべきである。
- ・持続可能な成長を可能とする化学物質のリサイクル使用。

### 【リスク評価】

- ・日本の化学物質管理はリスクベースに舵を切ったのであるから、他国の評価手段との比較も含めて、理論と実際を含めた深堀の議論。

### 【表示】

- ・現場で何が必要かという観点で、例えば、文科省の「学校環境衛生の基準」や厚労省の「室内の濃度指針値の対象化学物質」が分かるような表示をして欲しい。